

回覧

地域再生 協議会だより

百合が丘 2-29-6(老人憩いの家) 59-9356(火・金午前) issiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

お試し移住2倍の申し込み

11月末から12家族が来町

11月20日(金)から始まった「湘南にのみや・お試し移住」に24家族の応募があり、12組を選定した。空き家対策の一環としての呼びかけに予想以上の反響があり、在宅勤務、テレワークの普及に伴う郊外移転ニーズの高まりが明確になった。ウイルス対策に配慮しつつ、当初計画通り3家族ずつ4回にわたって実施する。選定に漏れた家族への対応についても検討する。



応募状況を見ると、東京都内が圧倒的に多く、横浜、千葉なども目立つ。ほとんどが「二宮暮らしに興味があり、週2日以上はテレワークで働く」という募集条件に沿った50歳代以下のファミリー。今春以降、大都市郊外や地方への居住に対する関心が高まっているが、ショートステイまでの仕組みを整えて取り組む事例は少なく、関心を呼んだものとみられる。新聞、テレビからの取材申し込みも相次いでいる。

第1組は20日にガイダンスを行い、県公社住宅に宿泊。22日(日)まで3日間を物件案内やおすすめスポット見学で過ごした。最終日には、百合が丘商店街で先輩移住者と懇談する機会もあった(写真)。懇談の場には、お試し組の友人なども加わるなど、和やかな交流の場が広がった。

村田町長と懇談 「組織解消後も発展を期待」

「一色小地区は例外」町のバックアップには触れず



地域再生協議会の拡大部会長メンバーは11月1日(日)、「再生協解消以後の地域活動」をテーマに村田邦子町長との意見交換(移動町長室)を行った。これまでの議論の要約を説明し、「広域的地域づくりのモデル」と位置付けられてきた活動の総括、方向付けなどについて話し合った。村田町長は、「協議会の枠組みがなくなっても工夫した活動を期待したい」と語り、広域的取組みについては「一色小地区の事例は町内他地区にはあてはまらない」との認識を示した。やり取りの中でも、町総合戦略下での総括、組織解消後の町のコミットについては触れず、「プラットフォーム的なものが課題であることは理解した」としている。

<意見交換の要点は以下の通り>

——現在の部会活動は、消えていくものと残っていく可能性があるものがある。一色小学校区という小さな地区を超えた枠組みの中で取り組んできた活動について、この取り組みを提起した町としてどう考えるか意見をいただきたい。

村田町長 活動の集大成の時期にコロナ問題に直面したのは残念だが、各部会の活動がこれからどう発展していくか楽しみだ。(協議会の解消によって)枠組みにとらわれることなく、連携し、変化していくのではないか。一色の協議会は域内5地区の特徴がかみ合っとうまくいった。これを、二宮の他の地区にあてはめることはできない。ここの地区の特徴が成果である。そのことを自信をもってアピールして欲しい。衣更えし、次につながるのは大きな意味がある。

——活動終了以降、行政がかかわっていかないとバラバラになり、途切れるものが出てくる。

村田町長 ある意味、自由にやったらいいのではないか。

——協議会というプラットフォームがなくなる時、活動の原点、目指したものは何だったのかが気になる。新しいプラットフォームを設け、この地区の経験を全町に広げていくという考え方もある。これまでの活動を町全体の中で整理し、どう発展させていくか、別な動きを考えていくかが重要だ。

村田町長 わかりました。プラットフォームが問題なのですね。何かしら、つなげたものを作っていくのも一つだと思うが、果たしてどうか。

——移動支援などのテーマは、他市の事例をみると、自治体か社協が手がけるのが一般的だ。

村田町長 大事なテーマだと思う。町の担当課と取り組んだらいい。

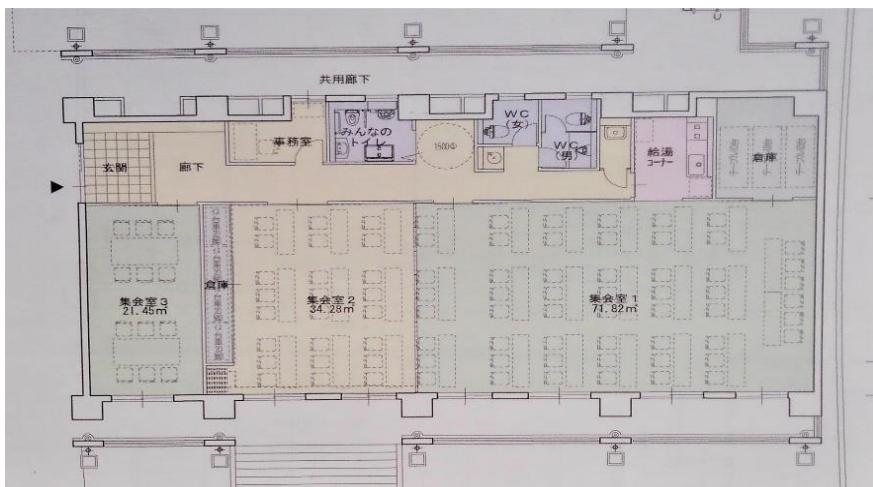
——再生協議会という組織がなくなると、ほとんどの部会は継続できないだろう。継続させるなら新プラットフォームが必要だ。企画管理機能を持つ組織を、町がバックアップして残せないものか。

村田町長 皆さんの関心はプラットフォームということですね。この5年間、自立に向けてやってきた。それがここに来て急に変わったわけではない。新たな要望が出てきたと理解していいですね。

——活動は本来、行政がやるべきものが含まれている。取り上げてきたのはこの地区だけの問題でない。現協議会の名前から、「一色小学校区」を削除し、全町的なものに発展させたらどうか。

村田町長 プラットホームという課題が出たことは理解した。

概要固まる一県営健康団地に3集会室



建替え後、県営健康団地に新設される200㎡規模の大型集会所の概要が固まった。

神奈川県要請で、県営テラス自治会と地域団体が活用方法をにらんだ設計案を話し合っていたもので、これをもとに詳細設計を進める。新設の健康団地1号棟1階に3部屋とそれらをつなぐ共用スペースを設け、県営テラス自治会と周辺の地域

団体が協力して地域福祉、コミュニティ活動に使う。

最大の特徴は移動間仕切り壁を取り払えば、約110㎡と現在の百合が丘児童館大ホールに匹敵する集会室が出来ること。利便性の良い立地であり、町内でも数少ない大型のコミュニティ活動拠点になる見通し。駐車場も併せて整備される。令和4年度に着工し、令和5年度に完成する。